

あーばんとーく

平成19年11月号(第123号)

- 総合学習「わたしたちのまち」報告(P.1)
- 花時計 機械更新の募金をしています(P.2)
- 「山麓リボンの道」を行く-その2:摩耶山のふもと(P.3)
- まちづくりセンターからのお知らせ(P.4)

あーばんとーくの感想をおよせ下さい!

発行:こうべまちづくりセンター

<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>



まちづくりセンターでは、小学生の「総合学習」の取り組みの一環として、「まちづくり」をテーマにした講義とまちあるきを実施しています。今号では第3弾/桜が丘小学校(西区)での取り組みを報告します。

10月5日。参加生徒数49人。所要時間3時間30分。タイトルは「押部谷を歩こう」。テーマは今回初の試みとなる「農村」と「ニュータウン」です。

桜が丘は、もともと昭和40年代前半に西区(当時は垂水区)押部谷の山間部を民間デベロッパーが開発造成して誕生したニュータウンです。桜が丘小学校は神戸電鉄栄駅から徒歩20分余り、ニュータウンのほぼ中央にあります。当ニュータウンは周囲を山に囲まれています。北接する明石川沿いには農村が連なり、この近辺は、ニュータウンとは対照的に歴史も古く、墳墓などの遺跡があり、弥生土器なども出土します。また古事記、日本書紀にも登場する顕宗天皇・仁賢天皇兄弟が幼少期に隠棲されていた顕宗仁賢神社、両兄弟を匿っていた豪族細目(いとめ)氏の屋敷跡、農村歌舞伎舞台等の「史跡」があります。

今回は桜が丘小学校の要望と全面協力を得て、まちあるきの範囲はニュータウンから飛び出し、時間枠も拡大、電車も利用し、郊外の農村にまで足を伸ばすコースとしました。

子供達は、ニュータウンにある人工の池(洪水調整池)と、押部谷の奥にある自然の池(川池)の2つの池



「あ、あった、まがいぶつ!あそこあそこ!」

を目指し、押部谷の「史跡・遺跡めぐり」に出発しました。学校を出て校区外の秋葉台を通り、神戸電鉄木幡駅から電車で木津駅へ。明石川沿いに農村を歩き、押部谷を奥へと遡上。農村部を過ぎるとやがて大きな「川池」が目の前に広がります。そして川池のすぐ傍らの旧街道沿いに、衝上断層により地表に突き出た高さ6~7メートルほどの屏風のような断崖が目をはきます。その断崖の上方には縦幅30センチ×横幅2メートルの横長の窓状にくりぬかれた部分があり、「木津の磨崖仏」と呼ばれる7体の仏像が岩肌に刻み込まれています。15世紀の室町期に、街道の安全を祈願して彫られたものと言われています。仏像群を見上げ、子供達の歓喜の音が川池に響きました。

稲刈りを終えた直後の田園風景を背に、飛び交うトンボを追いつけ、カマキリや玉虫を見つけてはしゃぎ、大きなジョロウグモを見てはしゃぎ、顕宗仁賢神社の境内を疲れ知らずに走り回っていた子供達ですが、2.3kmを歩いて学校へ戻ってきた時はさすがに疲れたのか幾分おとなしく、眼がショボショボしている子も何人かいました。

花時計

機械更新の募金をしています

みなさまご存知のこうべの花時計は、昭和 32 年 4 月、今から 50 年前に動きだしました。今は、あちこちで見られるようになった花時計も、こうべが、日本で第 1 号でした。この花時計は、実は市民のみなさんの寄付でできあがったものなのです。当時、多くの市民の方々の募金や、花の絵葉書の販売収益などを資金として設置されました。

現在、その花時計の内部の機械が 30 年経過し、更新の時期にきています。そのため、神戸市建設局では、設置のときからみなさまに支援されて今まで時を刻んできた花時計が、これからもみなさまとともに時を刻んでいけるよう、機械の更新のための募金活動をしており、広く市民にご協力をお願いしています。



50 年前・設置された当時の花時計



平成 19 年 8 月 2 日 50 周年記念【1 回目復刻版】

募金の方法

【花時計募金箱】

- ①神戸市役所 2 号館 3 階 建設局公園砂防部管理課
- ②神戸市役所 2 号館 3 階 建設局総務部庶務課
- ③こうべまちづくりセンター（元町商店街）
- ④神戸市総合インフォメーションセンター（三宮駅）
- ⑤花と緑のまち推進センター（諏訪山公園内）
- ⑥神戸総合運動公園（管理事務所 1 階）

上の①～⑥の場所では、右の写真のような花時計の形の募金箱を設置しています。金額の指定はありませんのでお気軽に入れにきてください。



【振込みによる募金】

1 口 1 万円以上の寄付をしていただける方は、申込書にご記入のうえ、下記申込み先までお申込みください。（郵送・Fax でも受け付けています。）お申込み受付後、神戸市から納付書をお送りいたします。

“希望される方は、花時計広場内にお名前を掲示します。”

◆申込書

- ・建設局公園砂防部管理課（電話：078-322-5420）まで連絡していただければ FAX・メールでお送りいたします。（直接来ていただいてもお渡しできます。）また、区役所・建設事務所にも申込用紙があります。
- ・ホームページからもダウンロードできます。

（<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/30/hanadokei/oboyoryo-bokin.html>）

◆申込み先

神戸市建設局公園砂防部管理課

住所：神戸市中央区加納町 6-5-1、電話 078-322-5420、Fax078-322-6087

「山麓リボンの道」を行くーその2：摩耶山のふもと

森崎輝行
(いきいき下町推進協議会)

「山麓の神戸脇浜の海上より見上ぐれば翠微すいびの中に巍然ぎぜんたる宝閣鮮やかにして…」と『摂津名所図絵』にもてはやされている摩耶山天上寺。そびえる堂塔に招かれて多くの旅人が安全祈願と観光に訪れた摂州一の名刹である。…(中略)…大化2(646)年にインドの高僧・法道仙人が開いたとされるが、もっと古くから山岳信仰の霊山だった。…(中略)…俳句の季語にも「摩耶詣」「摩耶参」があり、多くの人でにぎわったことをしのばせる[「兵庫の街道いまむかし」(橋川真一編著)より抜粋]。

「山麓リボンの道」の話の前に、上記の摩耶山への道について少し紹介しておきます。灘区から『摩耶古道地図』というリーフレットが発行されましたが、それには全山縦走路をふくめ19の登山ルートが紹介されており、古いものでは、旧天上寺<奥の院跡>を経て、山頂近くの巨石天狗岩へ向かう山深い道、かつては天狗とよばれた行者が駆け巡った「奥の院道」や、「行者道」と呼ばれた「青谷道」があります。また、江戸時代末期、大名行列と外国人との衝突を避けるために西国街道のバイパスとして山中に造られましたが、開通してすぐに参勤交代が廃止され、一度も大名行列に使われず廃道になった「徳川道」もあります。くわしくは、『摩耶古道地図』をご覧ください(摩耶ケーブルの乗り場でもらえます)。



海が見える山麓リボンの道



摩耶山のふもとの道標



高低差が激しい山麓リボンの道

摩耶山のふもと道は、明治期まではほぼ山の地形に沿って、蛇行したみちであったのですが、大正から昭和初期の、耕地整理や区画整理でまちがつくられ、直線的な道となります。この道の多くの街角から南の方向には、神戸の港や海が一望できます。摩耶山のふもとは、一年を通して風が非常に強いようです。筆者が訪れるたびに台風かと思えるくらいの風を経験させられます。特に、摩耶ケーブルの駅回りなどは大変なものです。風が強いとケーブルは運転を休止してしまいます。

摩耶山に困んだのでしょうか?この山麓リボンの道標は山形をしています。今回はここから、東へ向いて順次ご紹介しようと思います。

神戸は南北は急勾配の地形があたりまえに思えますが、標高約134mの摩耶ケーブルの駅から東の方向へ500m(護国神社付近)も行かないうちに、山麓リボンの道は50mも下ってしまいます。険しい谷を横断する実感が持てます。山の地形・等高線に沿って行くともっともっと山側を歩くことになるのだなあと思えます。



法道仙人が開祖の祥竜寺の楼門



六角堂(祥竜寺)

護国神社を出て山麓リボンの道をたどります。一帯は、学校の集積地です。山麓そのものに、西から長峰中学、六甲学院、神戸松蔭女子大学があります。そして、その突き当たり部分に神戸大学があり、その中をリボンの道は貫通しています。話は前後しますが、護国神社の少し西手前に美野丘小学校がありますが、ここの校舎は北須磨小学校、東山小学校と並んで現存する円形校舎です。近く、東山小学校が取り壊されることになっていますので、神戸市に残る2校の内の一つということになりそうです。長く残ってほしいものと思います。

神戸海星病院を過ぎ、なだらかになったところに、祥竜寺という名の禅寺(臨済宗)があり、その楼門や庭のなかにある六角堂はなかなか見事なものです。また、この寺は数奇な運命を辿っています。前述の法道仙人が開祖で、平清盛が当地に都をもったころは、寺運は盛んだったのですが、明治5、6年ごろ廃寺となってしまいました。しかし、現在、寺は見事に復興しています。

摩耶山上寺もかつては天災による興亡が相次ぎました。昭和51年には放火で焼失したのですが、現在、創建地に引越し、元摩耶山に再興。純木造としては、全国屈指の七堂伽藍が完成しています。

神戸JIBANKUN料金改定のお知らせ

こうべまちづくりセンターでは、神戸市が実施した土質調査結果をストックした「神戸JIBANKUN」のうち、ボーリング調査結果による土質柱状図約7,000本を一般に公開していますが、この度、閲覧交付の際の利用料金を下記の通り変更させていただくことになりましたのでお知らせいたします。

現 行	改 正 後
交付20枚まで 2000円 〔以後、1枚増える毎に 100円〕	交付1箇所あたり 500円 平面図（位置図） 1枚あたり100円

改訂時期：平成19年12月1日～
場 所：こうべまちづくり会館5階事務室
ご利用の際には誠にお手数ですが事前に当館事務室（078-361-4523）までご連絡下さい。
土日祝日および水曜日（休館日）は閲覧できませんのでご了承ください。

年末年始の休館日のお知らせ

- ・年末年始（12月28日～1月4日）、まちづくり会館は休館いたします。
- ・地下ギャラリー利用については、使用日の1年前の月の初日から、来館の上でお申込みいただいておりますが、平成21年1月分のお申し込みは1月5日（土）からの受付となりますのでご了承ください。（なお、初日に限り、午前10時から午前10時30分までの受付時間を設けています。利用日が重複した場合はその時に抽選を行います。）

まちづくり会館展示のお知らせ

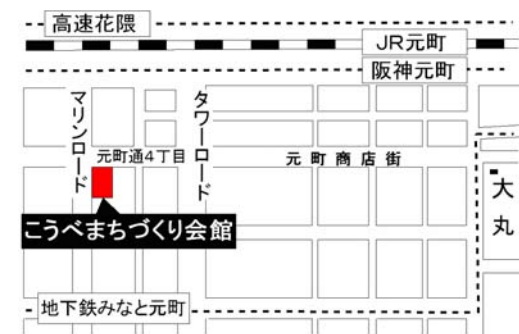
階オープンギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
11月 1日(木) ～ 30日(金)	メロディブリッジコンテスト受賞作品	建設局道路部計画課
12月 1日(土) ～ 27日(木)	第9回神戸まちなみ緑花コンクール 受賞作品パネル展示	神戸市公園緑化協会

地階ギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
11月15日(木) ～ 27日(火)	鈴木 城 神戸市電絵画立体作品展《水彩等》	こうべまちづくりセンター
11月29日(木)～12月4日(火)	チェリーの会作品展《油彩・水彩》	チェリーの会
12月 7日(金) ～ 11日(火)	「キルト♡マイド」パッチワークキルト作品展	宮本純子
12月14日(金) ～ 18日(火)	移情閣と舞子風景を描く・展覧会	移情閣（孫文記念館）友の会
12月20日(木) ～ 25日(火)	第12回光彩会展《油彩・水彩》	光彩会

展示時間：午前10時～午後6時（水曜日休館） ※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



最寄駅

地下鉄海岸線 みなと元町駅西口から1分
高速 花隈駅東口から3分 西元町東口から5分
JR・阪神 元町駅西口から8分

こうべまちづくり会館
〒650-0022
神戸市中央区元町通4丁目2番14号
開館時間：午前10時～午後6時（水曜日休館）
電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546
ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター（まちづくり会館4F）
自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談
電話・FAX：078-361-4565
受付：午前10時～午後6時（水曜日休館）
ただし、印刷は5時まで

